

# 「水防災意識社会 再構築ビジョン」 に基づく取組について

平成28年5月31日

➤ 関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「**水防災意識社会 再構築ビジョン**」として、全ての直轄河川とその沿川市町村(109水系、730市町村)において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

**<ソフト対策>** ・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「**住民目線のソフト対策**」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

**<ハード対策>** ・「**洪水を安全に流すためのハード対策**」に加え、**氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策**」を導入し、平成32年度を目途に実施。

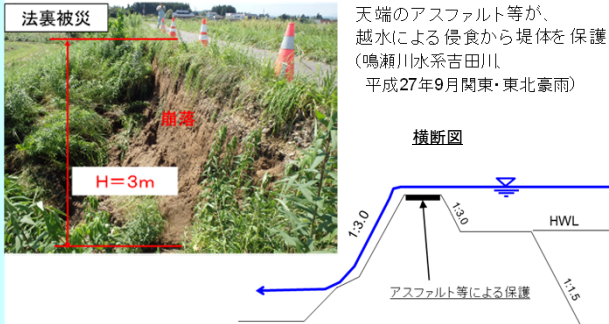
## 主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。

### <危機管理型ハード対策>

- 越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する**対策の推進**  
いわゆる粘り強い構造の堤防の整備

#### <被害軽減を図るための堤防構造の工夫(対策例)>



### <洪水を安全に流すためのハード対策>

- 優先的に整備が必要な区間において、堤防のかさ上げや浸透対策などを実施

### <住民目線のソフト対策>

- 住民等の行動につながるリスク情報の周知
  - ・立ち退き避難が必要な家屋倒壊等氾濫想定区域等の公表
  - ・住民のとりべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良
  - ・不動産関連事業者への説明会の開催
- 事前の行動計画作成、訓練の促進
  - ・タイムラインの策定
- 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供
  - ・水位計やライブカメラの設置
  - ・スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供



※ 河川堤防の決壊に伴う洪水氾濫により、木造家屋の倒壊のおそれがある区域

- 水害リスクの高い地域を中心に、スマートフォンを活用したプッシュ型の洪水予報の配信など、住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう住民目線のソフト対策に重点的に取り組む。

## リスク情報の周知

- 想定最大規模の洪水浸水想定区域図を公表
- 立ち退き避難が必要な家屋倒壊等氾濫想定区域等の公表



- 住民のとるべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良  
⇒「水害ハザードマップ検討委員会」にて意見を聴き、平成27年度内を目途に水害ハザードマップの手引きを作成

- 洪水予報文の改良
- 不動産関連事業者への説明会の実施  
⇒ 水害リスクを認識した不動産売買の普及等による、水害リスクを踏まえた土地利用の促進

## 事前の行動計画、訓練

- 避難に着目したタイムラインの策定
- 首長も参加するトップセミナーやロールプレイング形式の訓練



- 洪水リスクが高い区間の共同点検

## 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供

### スマホ等で取得



洪水予報等の情報をプッシュ型で配信



### 自分のいる場所の近傍の情報

ライブカメラ

河川の水位、雨量の状況

自分のいる場所

詳細な雨量情報

河川水位

河川名	観測地点	観測時刻	水位	水位差
新那賀川	新那賀川	15:00	1.20m	0.10m
新那賀川	新那賀川	15:00	1.20m	0.10m
新那賀川	新那賀川	15:00	1.20m	0.10m
新那賀川	新那賀川	15:00	1.20m	0.10m

- ⇒ 平成28年夏頃までに洪水に対しリスクが高い区間において水位計やライブカメラを設置
- ⇒ 平成28年出水期からスマートフォン等によるプッシュ型の洪水予報等の配信を順次実施

- 堤防整備・河道掘削等の流下能力向上対策、浸透・パイピング対策に関し、那賀川河川事務所管内において優先的に対策が必要な区間約5.7kmについて、平成32年度を目途に、今後概ね5年間で対策を実施する。

パイピング、法すべり



漏水対策(浸透含む)

L=約1.5km(堤防への浸透対策)

L=約3.0km(パイピング対策)

- ・過去の漏水実績箇所等、浸透により堤防が崩壊するおそれのある箇所
- ・旧河道跡等、パイピングにより堤防が崩壊するおそれのある箇所



大京原箇所:那賀川左岸4k6付近

流下能力不足



堤防整備・河道掘削等

L=約3.0km

- ・堤防高が低い等、当面の目標に対して流下能力が不足している箇所  
(上下流バランスを確保しながら実施)



深瀬箇所:那賀川左岸16k4付近

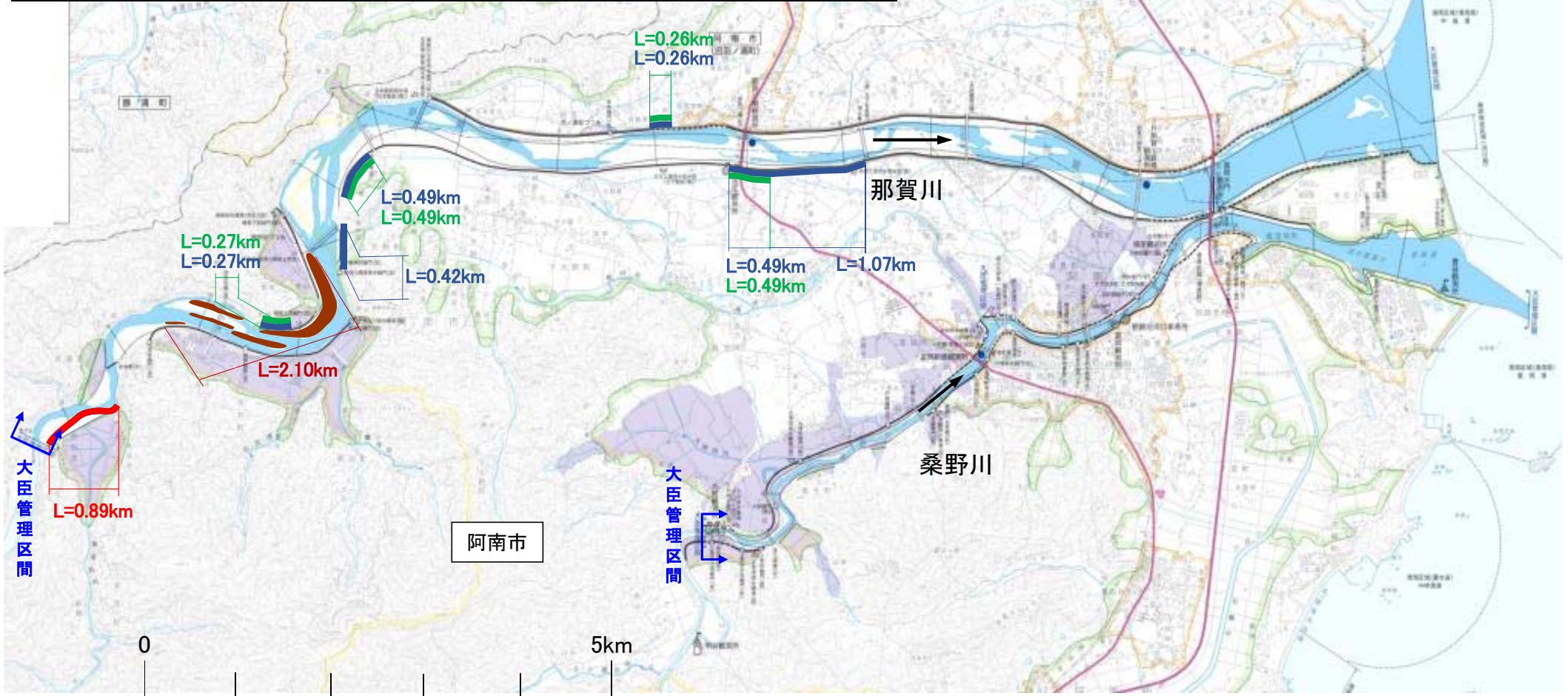
※各対策の延長は重複あり

優先的に対策を実施する区間L=約5.7km

## 洪水を安全に流下させるための対策 概要図 <那賀川>国管理区間

- 凡例
- 浸透対策 (緑色)
  - 堤防整備 (赤色)
  - 侵食・洗掘対策 (紫色)
  - パイピング対策 (青色)
  - 河道掘削等 (茶色)

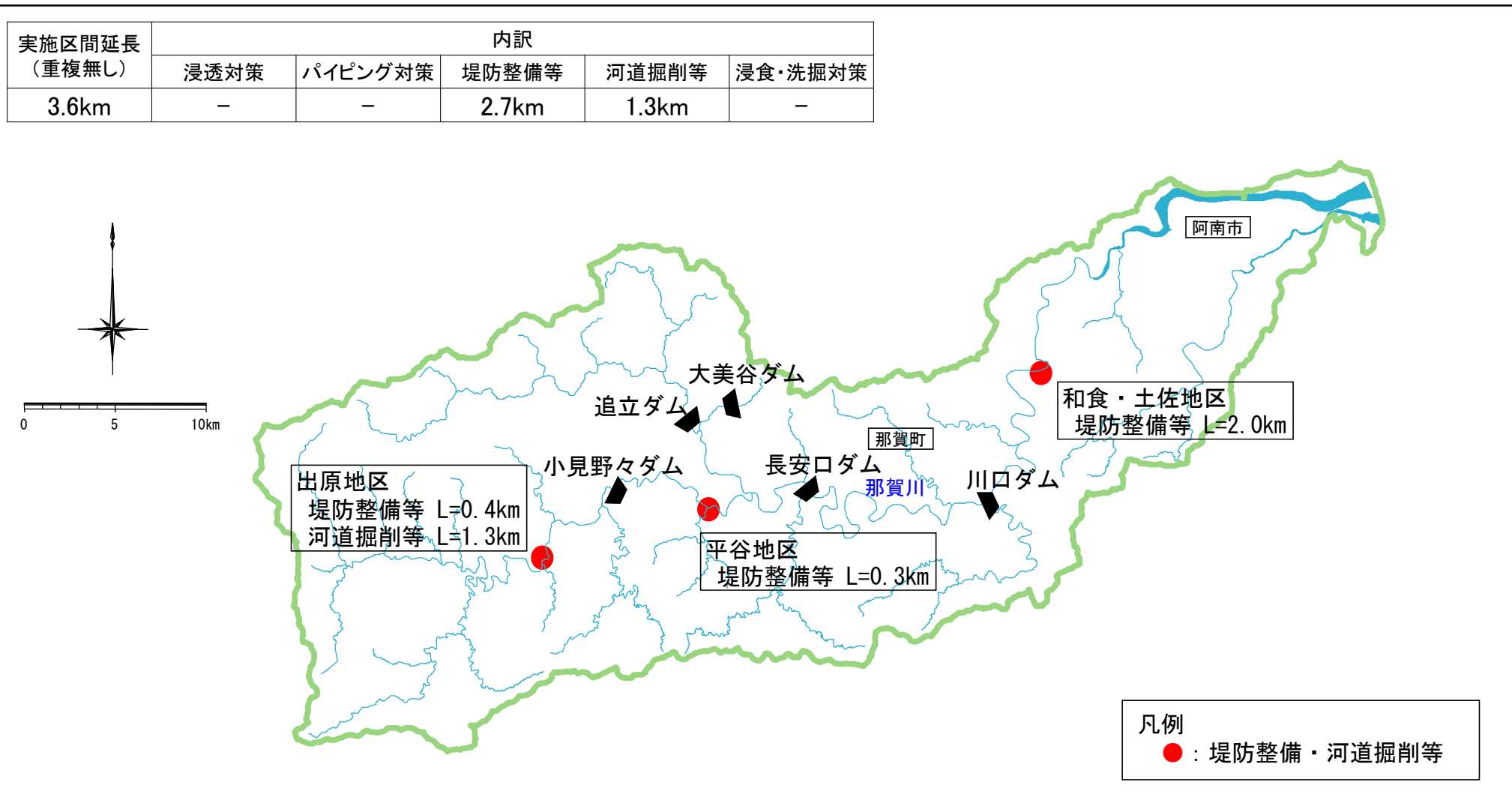
実施区間延長 (重複無し)	内訳				
	浸透対策	パイピング対策	堤防整備	河道掘削等	侵食・洗掘対策
5.7km	1.5km	3.0km	0.9km	2.1km	—



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号 平25四複、第29号)

※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の発生状況等によって変わる場合があります。  
 ※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係で概要図と合致しない場合があります。  
 ※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。

## 洪水を安全に流下させるための対策 概要図 <那賀川>県管理区間

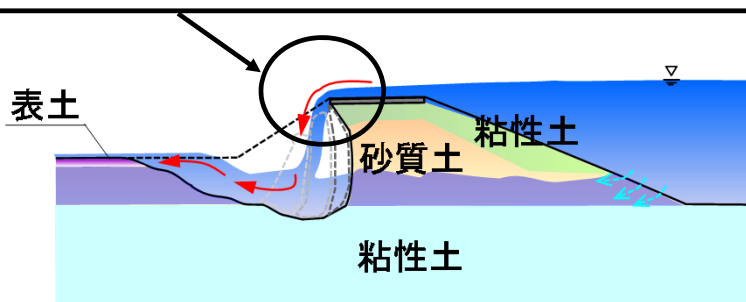


※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の発生状況等によって変わる場合があります。  
 ※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係で概要図と合致しない場合があります。  
 ※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。

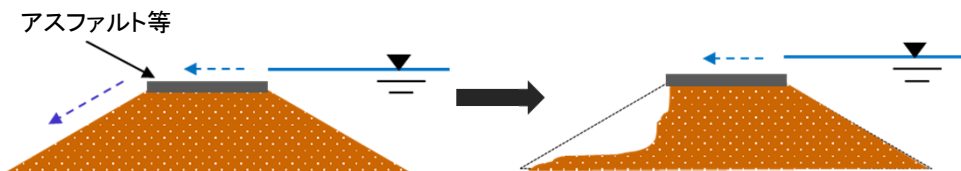
➤ 氾濫リスクが高いにも関わらず、当面の間、上下流バランス等の観点から堤防整備に至らない区間など那賀川河川事務所管内における約3.3kmについて、決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう、堤防構造を工夫する対策を平成32年度を目途に、今後概ね5年間で実施する。

## 堤防天端の保護

堤防天端をアスファルト等で保護し、堤防への雨水の浸透を抑制するとともに、越水した場合には法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



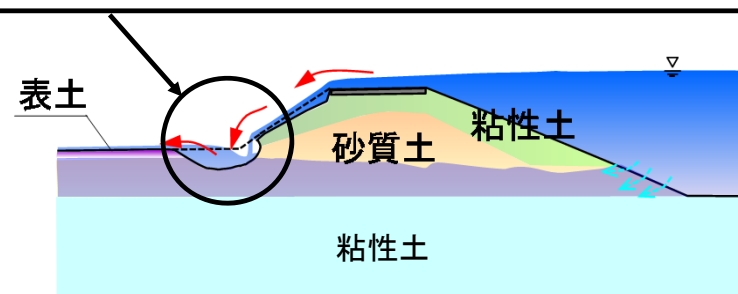
堤防天端をアスファルト等で保護した堤防では、ある程度の時間、アスファルト等が残っている。



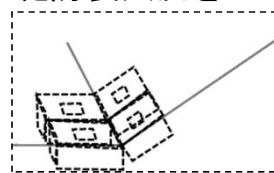
【那賀川:なし】

## 堤防裏法尻の補強

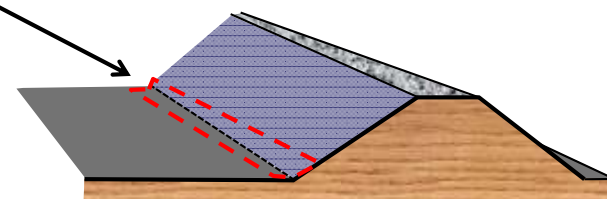
裏法尻をブロック等で補強し、越水した場合には深掘れの進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



堤防裏法尻をブロック等で補強



※ 具体的な工法については検討中



【那賀川::3.3km】

対策を実施する区間L=【那賀川:3.3km】

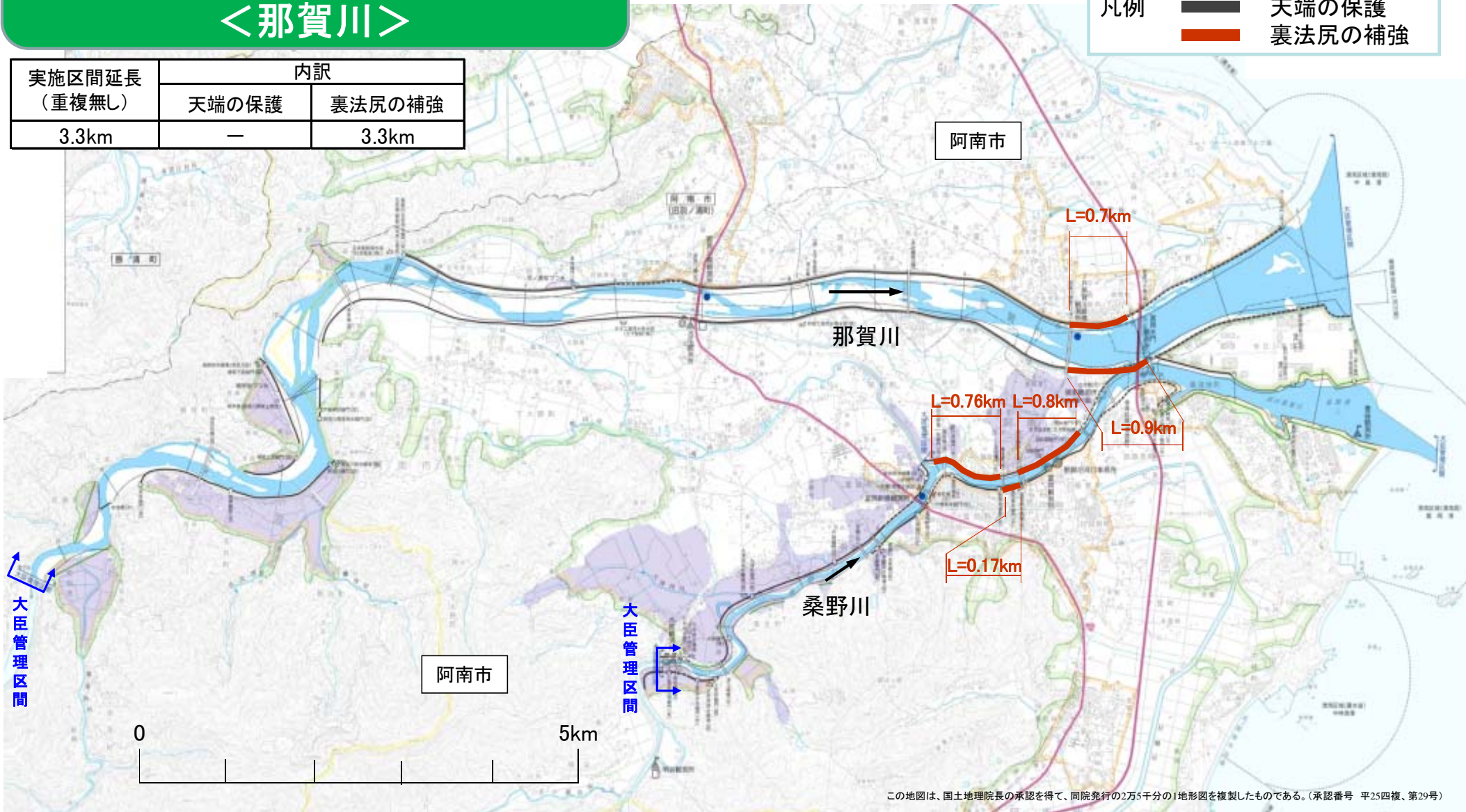
※各対策の延長は重複あり

## 危機管理型ハード対策 概要図 <那賀川>

実施区間延長 (重複無し)	内訳	
	天端の保護	裏法尻の補強
3.3km	—	3.3km

凡例

- 天端の保護
- 裏法尻の補強



※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の発生状況等によって変わる場合があります。  
 ※危機管理型ハード対策と併せて、住民が自らリスクを察知し、自主的に避難できるようなソフト対策を実施予定です。  
 ※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係で概要図と合致しない場合があります。  
 ※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。